

2005年10月1日(土)於：駒澤大学

物質文化からみた南島交易

- 水産物・繊維物を中心として -

角南聡一郎

貝塚時代前期 = 縄文時代

九州との交流は活発と断絶を繰り返す

糸魚川周辺のヒスイが沖縄から出土 これらのヒスイ製品は北陸以外の地域で再製作されたことが有力 九州西部経由か

貝塚時代後期 = 弥生時代・古墳時代・奈良時代・平安時代前半

南島産貝製品(ゴホウラ・イモガイ・オオソタノハ)が北部九州を中心に装身具として使用

沖縄本島 弥生土器、銅鏡、銅剣、銅鏃、板状鉄斧、柱状片刃石斧、ガラス玉、五銖銭、

奄美においてヤコウガイ交易開始 鉄器保有 擦文文化との対比可能

グスク時代 = 平安時代後半・鎌倉時代・室町時代前半

前半

日本へ ヤコウガイ、カムイ焼、赤木など

日本から 武器武具、長崎産滑石製石鍋など

後半 三山時代 明との交易開始

明から 中国陶磁、鉄器

琉球王国時代 = 室町時代後半・江戸時代

清との交易

ナマコ、フカヒレ、ワカメ、アワビ

タカラガイ、ヤコウガイ

貢物 漂白土夏布、生土夏布、黄芭蕉布、赤芭蕉布、紋芭蕉布

交易品 土夏布

北方との関係 昆布 琉球漆器の移動

